

農作物技術情報 第3号の要約

平成25年 5月30日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 県全体の田植え盛期は平年より3日遅れ。5月上旬に移植した一部ほ場では低温により活着の遅れが見られたが、5月第4半月以降、好天経過により全般に活着は良好である。</p> <p>低温対策: 低温時は深水にして保温に努める。</p> <p>技術対策</p> <ul style="list-style-type: none">○天候に応じてこまめに水管理をおこない、分けつ発生を促進させる。○目標茎数確保後は、すみやかに中干しを行う。○除草剤は雑草の種類や発生時期に応じて適期に散布する。○取置苗は土中に埋没させる等直ちに処分する。○斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の孵化盛期に合わせて地域一斉に草刈りを行う。
畑作物	<p>生育状況: 小麦の生育は全般的に平年よりも5日程度遅れている。県中南部では開花が始まっている。</p> <p>低温対策: 小麦赤かび病の防除適期は開花期だが、低温が続くと開花が遅れることが予想されるので防除適期を逃さないよう注意する。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦: 収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。</p> <p>大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行う。放射性セシウム吸収のリスクを低減するため、カリ肥料の施用や pH の矯正等の対策を実施する。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類、露地果菜苗ともに低温の影響により生育はやや遅れ気味。雨よけほうれんそうの生育は概ね順調だが、レタス・キャベツは7～10日間の生育遅れ、ねぎは回復傾向にある。</p> <p>技術対策</p> <p>全般: 圃場の排水対策を徹底し、生育促進、施肥効率の改善等をはかるため、適時かん水を行う。</p> <p>施設果菜類: 温湿度管理を徹底し、生育に応じた早めの作業で草勢維持に努め、病害虫の初期防除を徹底する。</p> <p>露地果菜類: 定植を適期に行い、活着促進と初期生育確保のため、土壌水分・地温確保と定植後の保温対策に努める。</p> <p>雨よけほうれんそう: ハウスの温度、湿度管理や圃場水分、生育中かん水を適切に行い、高温や過湿による病害発生や生育不良を防ぐ。コナダニ類の防除対策を徹底する。</p> <p>キャベツ、レタス等: コナガ、ナモグリバエ等害虫の適期防除を行う。</p>
花き	<p>生育状況: りんどうは平年よりやや遅い生育。小ぎくは定植後の低温で初期生育の遅れがみられる。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: リンドウホソハマキ、ハダニ類など病害虫の防除を適期に行う。定植は天候をみながら計画的に進め、苗が老化しないうちに適期に行う。</p> <p>小ぎく: 定植、整枝作業を各品種の生育にあわせて順次進める。白さび病防除を徹底する。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの開花は平年より7日前後の遅れ。ぶどうの発芽は8日遅くなった。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご: 小玉果が懸念されるため、早期摘果、早期適正着果に努める。</p> <p>ぶどう: 開花前後の管理を計画的に進める。</p>
畜産	<p>技術対策</p> <p>牧草: 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響するので、適機収穫を行う。</p> <p>飼料用トウモロコシ: 収量確保・サイレージの品質向上のため、生育期処理を行う。</p> <p>暑熱対策: 電気料低減と換気効率向上のため、換気扇の清掃し、夏場に備える。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

○春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日)「慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！」

次号は平成25年6月27日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 平成25年 5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 分けつ発生を促進させるため、天候に応じてこまめに水管理をしましょう。
- ◆ 目標とする莖数が確保されたら、すみやかに中干しを行いましょう。
- ◆ 除草剤は雑草の種類や発生時期に応じて選択し、適期に散布しましょう。
- ◆ 取置苗はいもち病にかかりやすいので、土中に埋没させる等直ちに処分しましょう。
- ◆ カメムシ密度を低減させるためふ化盛期に合わせて地域一斉に草刈りを行いましょう。

1 生育概況

県全体の田植え盛期(50%終了)は5月19日に迎え、平年より3日遅れです。田植え終期は5月24日と見込まれ、概ね適期内に田植え作業が終わる見込みです。

5月上旬に田植えを行った一部のほ場では低温経過により活着の遅れが見られましたが、5月第4半旬以降、気温・日照時間とも良好に経過しており、全般には活着は良好です。

表1 県内農業地帯別田植状況(各農業改良普及センター調べ) 5/28現在

地帯名	田植え時期(月/日)								
	本年(月/日)			平年			平年差(日)		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/18	5/23	(5/27)	5/16	5/19	5/24	2	4	(3)
北上川下流	5/12	5/17	(5/22)	5/10	5/14	5/20	2	3	(2)
東部	5/12	5/17	(5/23)	5/11	5/15	5/21	1	2	(2)
北部	5/21	5/25	5/28	5/19	5/23	5/27	2	2	1
県全体	5/14	5/19	(5/24)	5/12	5/16	5/21	2	3	(3)

注) 1, 平年値は10か年(平成15~24年)の平均値, 始期: 10%終了、盛期: 50%終了、終期: 90%終了
2, 括弧内の数値は未確定市町村があるため推定値。

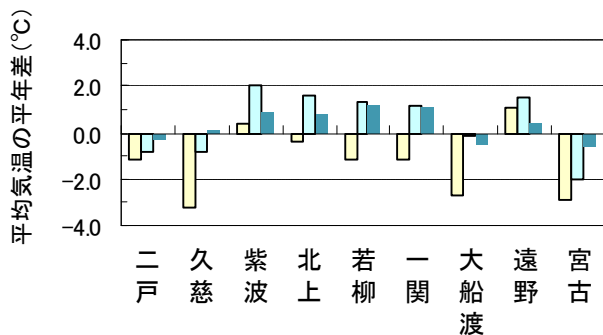


図1 移植期の平均気温平年差(半旬毎)

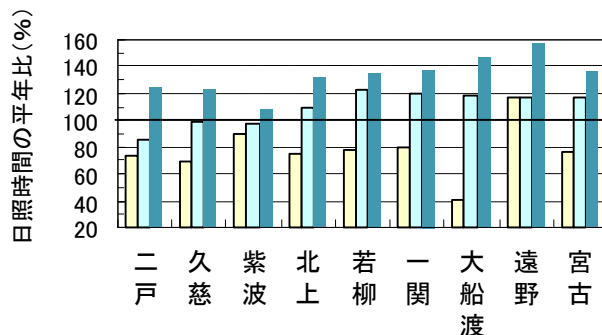


図2 移植期の日照時間平年比(半旬毎)

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

（1）分けつの促進

好天時は浅水とし、水田水温や地温を高めて分けつ発生を促します。

最高気温が概ね15℃以下の低温時には、葉先が出る程度の深水とします。特に、県北部など田植えから間もないところでは、活着・初期生育を促すようきめ細かな水管理をしてください。

冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用して積極的に水温の上昇をはかりましょう。

生わらを施用した水田では、気温の上昇とともにわらが分解して酸素不足になります。水持ちが良い水田では一時落水し、新しい水と入れ換えてください。ガス抜きと雑草防除をかねた中耕も効果的です。

（2）中干しの実施

目標とする茎数（目標とする穂数とほぼ同数）が確保されたら中干しを行いましょう。中干しは、土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかり、無効分けつの発生を抑制します。

ア 中干し期間はおよそ7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安とします。

イ かん水や排水を容易に行うため、中干しの実施とあわせて作溝すると効果的です。

ウ 中干し後、一度に深水にすると酸素欠乏で根に障害が出ることもあるので、中干し直後は間断かんがいと、その後常時湛水とします。以後は低温でない限り、幼穂形成期までは間断かんがいとします。

3 効果的な除草剤の使用

ノビエやホタルイなどの水田雑草はほぼ平年並みに発生が始まっています。

これから除草剤散布をするところでは以下の点に留意して除草剤の効果を十分に発揮させましょう。

（1）雑草の種類や葉齢を良く確認して適期に除草剤を処理しましょう。

（2）十分な湛水深を確保してから除草剤を処理し、処理後3～4日間は水を動かさない（止水期間は7日間）。この間、田面を露出させないことが大切です。



写真1 2葉期のノビエ



写真2 2葉期のホタルイ

※ほとんどの初・中期一発処理剤は、この頃までに処理すれば十分効果が期待できます。

4 病虫害防除対策

(1) 葉いもち（補植用取置苗の早期処分）

水田内や畦畔際に放置された取置苗は、いもち病の伝染源になるので、まだ放置している場合は直ちに土中に埋没させるなどにより処分してください。

処分する際はいもち病が発生していないかよく観察し、発生が見られたら今後の本田でのいもち病発生に注意してください。

葉いもち予防水面施用粒剤の施用時期は6月20日～25日が適期です（移植時にいもち病予防箱粒剤を施用した場合は必要ありません）。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。

ストロビルリン系薬剤（嵐剤、オリブライト剤）は耐性菌の発生リスクが高く、既に他県（山口県、島根県、愛媛県、福岡県、大分県）では耐性菌の発生が確認されています。

嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田で使用しないでください。もし防除効果の低下が疑われる場合には、病虫害防除所または農業改良普及センターまで連絡してください。

葉いもち予防水面施用粒剤を施用する前や箱施用剤を使用した場合でも、圃場をよく観察して発生が見られた場合には直ちに茎葉散布してください。



写真3 圃場に放置された取置苗

(2) 斑点米カメムシ対策（発生源対策）

斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などで繁殖します。

アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵のふ化（卵がかえること）盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的です（県農業研究センター平成19年度研究成果）。

アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期は平年に比べ並～やや遅い予測です。ふ化盛期を目安に地域全体で草刈りを行い、アカスジカスミカメの密度低減に努めましょう。

（県内各地のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期は、病虫害防除所発行の病虫害防除速報No.3 水稻編-1（平成25年5月20日発行）を参考にしてください。）

なお、県北部等は今後発行される予定の情報（5月下旬，発生予報第3号）で最新の予測情報を参考にしてください）。



写真4 畦畔に群生するイタリアンライグラス

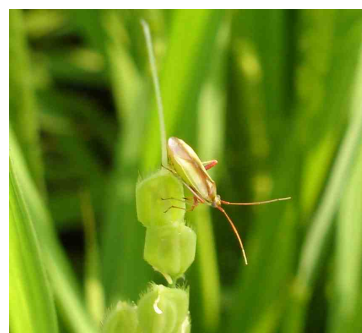


写真5 アカスジカスミカメ成虫

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成25年 5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 小麦の生育は全般に平年よりも5日程度遅れています。県中南部では開花が始まっており、赤かび病の防除時期となっています。既に開花期となっている地域では、直ちに防除を実施しましょう。収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で望みましょう。
- ◆ 大豆 排水対策・耕起・碎土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。放射性セシウム吸収のリスクを低減するため、カリ肥料の施用やpHの矯正等の対策を実施しましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

小麦

1 赤かび病の防除

小麦の生育は平年よりも5日程度遅れていますが、県中南部では既に開花が始まっております。赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になりますので、表1を参考に防除を行いましょう。低温が続いた場合、開花が遅れることが予想されますので、防除適期を逃さないよう注意しましょう。

穂が緑色のうちにほ場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。また、赤かび病が多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

表1 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7~10日後	2回目散布の 7~10日後
ナンプコムギ	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)	—
ゆきちから ネバリゴシ	◎ (必須)	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)

2 乾燥・調製施設との連携

- (1) 小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。また、刈取時に雨の日が続き、刈取りが遅れると穂発芽や赤かび粒も発生しやすくなります。適期内に収穫できるよう機械等の点検整備をあらかじめ行いましょう。
- (2) 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

大豆

1 排水対策の実施

- (1) 排水不良は発芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。
- (2) 播種前に弾丸暗きょやサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦畔

の内側に溝幅 20～30cm、深さ 15～30cm の溝（額縁明きよ）を作り、ほ場水尻の排水口につなぎましょう。

2 施肥・耕起・砕土・整地

- (1) 放射性セシウム吸収のリスクを低減するため、カリ肥料の施用（土壌中カリ含量 40mg/100g まで改良）や pH の矯正（pH6.0～6.5 を目標）等の対策を実施しましょう。
- (2) 砕土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う発芽不良などの原因となります。
- (3) 砕土はよく乾いたほ場から行いましょう。
- (4) 耕うん・砕土後（特にロータリ耕後）は、土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。
- (5) 耕うん後に降雨があると、土壌条件が整わず播種が遅れることがあります。オペレータが確保できれば、砕土作業を追いかけるように、播種、除草剤散布を同日に行うのが理想的です。

3 播種作業…栽植密度を確保するため次の点に留意を

(1) 播種適期

概ね表 2 のとおりです。播種作業は適期内に行いましょう。ただし、ほ場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想されるときは作業を控えましょう。逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽の障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

表 2 大豆の品種別地帯別播種適期

早晩生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・スズカリ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
	（晩播）	—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

(2) 播種様式

畦幅（条間）は、その後管理する機械に合わせて設定してください。品種別の栽植密度は表 3 のとおりです。

表 3 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	スズカリ	青丸くん
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万2千
畦間×株間(cm) *	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×30～24
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	3～3.5	2.5～3

*) 畦間を 70cm、1株2本立てとした場合を示した。

「ユキホマレ」の麦後栽培では、畦間 30cm 前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

(3) 播種量

同じ栽植密度でも種子の大きさにより播種量が変わりますので、適正な栽植密度となるよう、種子の大きさに応じて播種量を決めましょう。主な品種の種子の大きさは次の通りです。

＜参考＞平成25年度播種用採種ほ産種子

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	大粒	29.5	3.6程度
ナンブシロメ	中粒	27.7	3.4程度
ナンブシロメ	小粒	20.4	2.5程度
リュウホウ	大粒	35.0	4.2程度
リュウホウ	中粒	28.4	3.4程度
スズカリ	大粒	30.9	3.7程度
コスズ すずほのか	小粒	10.3	1.3程度
	極小粒	7.7	1.0程度

※ ナンブシロメ・スズカリの適正な栽植密度は、10aあたり10,000～12,000本、リュウホウの適正な栽植密度は10aあたり7,000～15,000本です。

※ 必要種子量は、10aあたり12,000本、出芽率100%の場合で計算していますので、出芽率が80%程度となっても、本数は10,000本近く確保できる種子量です。

(4) 病害虫防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、チアメトキサム・フルジオキシニル・メタラキシルM水和剤やチウラム水和剤等で種子消毒をします。

「青丸くん」については褐斑粒発生防止のため、ウィルスを媒介するアブラムシを防除してください。アブラムシ類の防除は、土壌施用殺虫剤および本葉第1葉～2葉展開期頃の茎葉散布を行います。種子にチアメトキサム水和剤を塗沫処理した場合は、エチルチオメトン粒剤やジメトエート粒剤などの播種時の土壌施用を省略できます。

(5) 雑草防除・・・丁寧な砕土で除草剤の効果安定化を

ア 土壌処理剤は播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。

イ 砕土が不十分な状態で土壌処理剤を使用すると、効果が低下したり薬害の発生するおそれがあります。砕土を丁寧に行い、土壌処理剤と中耕を適切に組み合わせることが大切です。

ウ 覆土が浅すぎる場合も薬害の生じる場合があります。覆土は2～3cm以上確保しましょう。

(6) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。

ア 雑草防除

イ 倒伏防止

ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる

エ 発根を促進し、根群を発達させる

オ 土壌の排水を良好にする

中耕培土の時期は大豆2～3葉期と5～6葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて（除草剤の効果がなくなってきたら）、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと（おおむね1葉節以下）に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成25年 5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 施設果菜類 温度管理の徹底、草勢維持、病虫害防除に努めましょう！
- ◆ 露地果菜類 活着促進のため、土壌水分と地温を確保しましょう！
- ◆ 雨よけほうれんそう ハウスの換気に注意して適切なかん水を心がけましょう！
- ◆ 露地葉菜類 害虫の発生状況に応じた早めの防除を！

1 生育概況

- (1) 施設果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、低温経過の影響により出荷開始時期が例年より遅れており、半促成きゅうりでは節間が短い傾向にあります。
また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマト、ピーマンでは生育が例年より遅れており、低温による根張りの不良も相まって生理障害も散見されています。
- (2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンとも例年と同様5月下旬から定植が始まっていますが、育苗期間中の低温や不安定な天候の影響により、苗の生育や圃場準備が遅れ、定植が遅れているところもみられます。
- (3) 雨よけほうれんそうは2作目の播種が始まっています。生育は概ね順調ですが、一部でキボシマルトビムシ、ケナガコナダニ、アブラムシの発生がみられます。
- (4) レタスは5月上旬の低温、5月中旬以降の干ばつ傾向により、生育・収穫開始が1週間程度遅れています。キャベツの定植は平年程度になったものの、生育は10日程度遅れています。
- (5) 県北部の促成アスパラガスの定植が5月上旬から本格的に始まり、概ね順調に進んでいます。ねぎの定植は一部で春先の天候不順による遅れが見られますが、概ね例年並みの進度です。生育は5月上旬の低温で生育がやや遅れたものの、回復傾向にあります。

2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検整備を行い、ほ場外からの水の侵入防止に努めるとともに降雨後の排水を促すための明きよと排水口の設置、高うね栽培とします。長時間滞水するなど排水不良が十分改善されない場合は、耕盤破砕や補助暗きよの設置も検討して下さい。

排水良好なほ場では、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が現れます。県内各地で簡易点滴かん水装置の導入も進んでいます。近年、定植直後からの高温乾燥や夏期高温傾向が続いていますので、露地果菜類においてもかん水設備の設置・導入をぜひ検討して下さい。

(2) 施設果菜類の管理について

これまで、低温の影響により生育遅れや低節位での着花、ピーマンでは3本分枝などが見られていますので、前号を参照して温度管理の徹底に努めてください。特に根張り不良で草勢が低下している場合は、低段位の花(きゅうりでは雌花)を摘花する、トマトでは適正着果数に調整し追肥を行ってからホルモン処理をする等、草勢と根張りの確保に努めましょう。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきます。長期安定生産に向けて、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。特に雨よけトマトでは5～6段以降急激に草勢を低下させるケースが多いことから、草勢低下(生長点が細くなるなど)の兆候が見える前から早めの追肥実施、低段の着果制限を行うなど、草勢維持管理を徹底しましょう。

また、近年6月の好天時に尻腐れ果の多発や、急激な気象変動による生長点の萎れが発生する傾向にあります。着果量も増える時期となりますので、生育と天候に見合ったかん水をしっかり行うようにして下さい。

害虫では、アブラムシ類やアザミウマ類、ハモグリバエ類などの害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。特にアブラムシの発生が多い傾向にあるため、ウイルス病の初期感染防止の観点からもしっかり防除を行って下さい。

また、低温時にハウスを密閉すると湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、換気を徹底し風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。また、細菌病、ウイルス病の感染拡大を防ぐため、わき芽取りは傷口が乾きやすい晴天時に行いましょう。

(3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。

初期生育を良好にするためには、防風対策をしっかりと行うとともに土壌水分が適湿な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

定植作業は晴天日を選んで行い、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するなど活着を促すようにします。また、定植直後の防風保温対策として、ポリキャップなどの利用が効果的です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と5節以下の側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～10節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は着果させる節位を2～3節上げ、草勢の確保に努めます。6～8節から発生した側枝は1節摘心、それ以上から発生した側枝は2節摘心、孫枝は1節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し予防散布に努めますが、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例がみられますので、薬剤散布の効果が見られない場合は普及センターに相談してください。

イ ピーマン

トンネル栽培では、日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害(葉焼け、落花等)が発生しやすいので、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が続く場合は被覆期間を延長します。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は過繁茂の原因となりますので、誘引開始時まで誘引しない分枝を早めに整理します。第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとり、誘引後はふところ枝が過繁茂にならないように適宜剪除します。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

(4) 雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気を十分行うとともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、計画的に土壌消毒を実施しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となりますので、抽台しにくい品種を用いることが基本になります。生育が停滞しないように、播種前の十分なかん水、温度管理を徹底するとともに、乾燥する場合は、生育中（本葉 3～4 枚以降）かん水も行うようにしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害は全体的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

- 春～夏には堆肥の施用を控える。
- 農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。
- 被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。
- 生育中のかん水を行い、収穫直前まで圃場の表面が湿った状態にする。

アブラムシ類の発生が見られています。現在ホウレンソウケナガコナダニに多く使用されている薬剤はアブラムシ類に効果がないので、発生が見られたら効果のある薬剤で適切に防除しましょう。

（5）露地葉菜類の害虫防除

ア キャベツ

コナガの重点防除時期になるので、幼虫の発生を確認したら早めに防除を行いましょう。

また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しましょう。

ヨトウガについては、今後の発生予察情報に留意し、適期防除開始に努めましょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しましょう。

イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



（6）アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が 20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を予防散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

（7）ねぎの栽培管理

定植後 1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。低温でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましょう。

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 花き

発行日 平成25年 5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんどう 土壌水分管理、病害虫・雑草防除を適期に行いましょう。
- ◆ 小ぎく 定植、整枝などの作業を計画的に行いましょう。
- ◆ トルコギキョウ 生育初期の水分・温度管理を適切に行いましょう。

りんどう

1 生育の状況

萌芽や展葉の初期の生育は平年並みとなっていました。4月下旬から5月上旬にかけて低温で推移したため、草丈が平年よりやや短い傾向となっています。

一部の地域で早生種を中心に葉先枯れ症状がみられています。また、病害虫ではリンドウホソハマキやハダニ類の発生が始まっています。

育苗は各地域とも概ね順調に進み、6月上旬から本格的に定植が始まる見込みです。

2 圃場管理〔株仕立て、かん水、除草〕

株仕立てが終わっていない圃場では、草丈が30cm頃までに株当たり7本を目安に整理します。

5月下旬から6月は茎の伸長量が大きく、また花芽の分化の時期となります。水分を多く吸収するとともに、肥料成分も土壌水分があることで吸収されるので、降雨が少ない場合は必ずかん水を行います。ただし、高温時にかん水を行うと根に障害が発生し地上部まで影響を及ぼすことがあるので、夜間または気温の低い日を選んで行いましょう。また、圃場に数日以上の間水をとめておくことも避けてください。

ほ場の乾燥は葉先枯れ症状の発生を助長します。発生しやすい圃場では、かん水の徹底と石灰資材の葉面散布で発生を抑えましょう。

圃場内や周辺の雑草はハダニ類やアザミウマ類の繁殖源となるので、放置することのないよう早めに処理します。畦畔の草刈りや通路の除草を早めに行いましょう。除草剤を使用する際は、必ず農薬登録や使用方法も確認し、りんどうに飛散しないように注意します。

3 施肥管理

基肥としてりんどう専用肥料を用いた場合、追肥施用時期は側芽発生期（葉の付け根に小さく腋芽が見える頃）前です。北上市付近における側芽発生期は早生種で6月上旬、晩生種で6月下旬です。この時期までに施用してください。葉色や葉の大きさ、草丈などで判断し、過剰にならないよう留意してください。

4 定植

天候を見ながら早めに計画的に作業を進めましょう。堆肥はできるだけ早く施用して砕土し、その後基肥を施用し床作り、マルチ張りを行います。また、排水不良ほ場では明きょ、排水路の設置

等の対策を講じます。定植年の株養成次第でその後の生育が決まりますので、できる限り排水性等ほ場環境を整備したうえで定植して下さい。

施肥については、2年目まで肥料成分がゆっくり溶け出す緩効性肥料である「りんどう定植2年肥料」を使用した定植が行われるようになりました。基本的には2年目の施肥が不要となり、施肥作業の省力化になりますが、土壌条件等によっては、2年目の春に肥料の過不足が見られる場合がありますので、生育状況をよく観察して管理してください。

定植は苗が老化しないうちに早めに行います。定植作業は苗の萎れを防ぐため曇天、無風時が理想的ですが、晴れた日に行う場合は、トレーが高温にならないように扱い、また根が乾燥しないように植えつけ直前にトレーから取り出すようにします。

表 りんどう定植ほ場施肥量例（10aあたり）

施肥例	肥料銘柄	資材分量	現物施肥量
施肥例1	りんどう専用肥料	窒素 15 磷酸 16 加里 15	60～80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	30kg
施肥例2	りんどう一本勝負	窒素 15 磷酸 10 加里 12	60～80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg
施肥例3	りんどう定植2年肥料	窒素 15 磷酸 10 加里 10	180～150kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg

苗にジベレリン処理を行った場合は、処理後、早めに（数日以内）定植してください。また、定植後は薄めの液肥、または水をかん注し、床土と苗をなじませます。定植後は活着や初期生育を促進するため乾燥しないように管理します。

5 病虫害防除

(1) 葉枯病

現在のところ発生は少ないですが、薬剤散布で生育初期からの予防を徹底しましょう。下葉に感染していたものが降雨により順次上位葉に拡大するので、定期的な薬剤散布による拡大防止に努めてください。

(2) リンドウホソハマキ

県中南部では越冬世代の羽化が確認されています。昨年発生した圃場では今年も注意が必要です。防除適期は県中南部で6月上旬となっていますが、今後の発生予察情報を参考にしてください。該当時期の防除の徹底とともに、潜葉痕や茎頂部の食害があるかよく観察してください。

(3) ハダニ類

ハダニは高温・乾燥条件で増殖しますので、今後の気象経過に留意するとともに、下位の葉裏の寄生状況を観察し、発生を見たら早めに薬剤散布を行って防除してください。増殖源となる圃場周辺の雑草防除も併せて行います。

小ぎく

1 生育の状況

8月咲き品種は、定植時期に天候に恵まれず作業の遅れがみられました。各地域とも概ね5月上旬までには定植されましたが、定植以降も降霜や低温の影響で初期生育は緩慢となっています。

9月咲き品種の育苗は概ね順調に進み、5月下旬から定植が始まっています。

病害虫では、育苗ハウスや定植圃場で白さび病が発生しているほか、ナモグリバエの発生がみられています。

2 定植後の管理〔かん水、整枝、土寄せ〕

8月咲き品種では、草丈不足が心配されますので、初期生育を確保するために水分不足にならないよう注意し、必要に応じてかん水を行いましょう。追肥は一般には不要ですが、伸びが悪い場合、葉色が薄い場合などは少量の追肥（液肥）も効果的です。

摘心後に伸びた側枝は必ず3～4本に整理して品質確保を図ります。この時強い枝から残すのではなく、揃った枝を残すようにします。仕立て本数は品種特性に応じて変更します。

無マルチ栽培の場合は、土寄せを行い生育の促進を図ります。側枝が10cm程度伸びた頃と、整枝を行ったあとの2回が実施時期の目安です。ただし、土寄せにより開花が遅れる場合もあるので留意してください。

3 病害虫防除

(1) 害虫

アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ハモグリバエ類などが問題となります。発生状況の観察に努め、早期防除に努めます。併せて増殖源となる雑草防除も行います。

(2) 白さび病

キク栽培で、特に重要な病害です。定期的な薬剤散布で予防します。新葉の展開に合わせて5～7日間隔で散布することが基本ですが、降雨が続く場合などは散布間隔を狭めます。薬剤の選定は各地域の防除暦等を参考にしてください。



図 小ぎくの白さび病（葉裏）

(3) ウィルス・ウィロイド病

ミカンキイロアザミウマ等が媒介する TSWV（トマト黄化えそウイルス）の感染による「キクえそ病」が県内でも確認されていますので、疑いがある場合は普及センターに相談してください。ウイルス以外の要因で類似の症状が発生する場合もあるので、慎重に判断してください。罹病株の抜き捨て、アザミウマ類の防除を徹底し被害拡大を防止しましょう。

キクに発生するわい化病（キクわい化ウィロイド）、キクえそ病（TSWV）に感染した株は回復することがありません。圃場に残すことで他への伝染源となるので、見つけ次第抜き捨てることを徹底してください。

(4) 9月咲き品種

定植期は5月下旬～6月上旬となりますが、丈の伸びやすい品種は遅めに定植するなど品種特性に応じた定植期としてください。

その他

1 トルコギキョウ

5月播種では、夜冷短日育苗と定植後30日間の短日処理を組み合わせることでロゼット化や短茎開花を回避し、10～11月の出荷が可能となります。本県では8～9月に出荷が集中する傾向があるので、新たな作型の導入を進め、有利販売を図りましょう。

夏切り作型の定植後の栽培管理は、曇天が続く場合は施設内の遮光資材や内部カーテンを開け、日射量を確保するよう管理しましょう。日照不足は品質低下や場合によってはロゼット化の原因となります。また、施設内の温度にも敏感に反応するので、適温管理に努めましょう。

2 ユリ類

抑制作型では遮光等により施設内の温度低下を図りますが、品質低下を防ぐために日照をできるだけ確保することと、土壌水分を維持することが求められます。温度上昇を防ぐ遮光資材は、遮光率の高い資材の使用を避け日照確保に努めます。施設の換気に努め、茎の軟弱化を防ぎます。一方で天候が不順な場合は日照を確保するよう遮光資材を開放しましょう。

3 アルストロメリア

葉芽や枯れ茎は適宜間引きますが、間引きが強すぎるとその後発生する芽が細くなるので注意します。高温期の過剰なかん水や施肥は根の障害を招くことがあるので注意します。かん水を少なくしたい品種もあるので、品種特性に応じた管理とします。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日
～6月15日]

慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第3号

果樹

発行日 平成25年5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ りんごの開花は平年より7日前後遅くなりました(平成23年よりも遅い)！平成23年と同様に小玉果が懸念されます。摘果作業を急ぎましょう。
- ◆ ぶどうの生育も平年より大幅に遅れていますが、今後の気温の推移により生育が進むことも考えられます。計画的に開花期前後の管理を進めましょう！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果(表1)によると、4月上旬は気温が平年より高かったため萌芽・展葉は概ね平年並みとなりましたが、4月中旬から5月上旬(沿岸部は5月中旬)まで気温が低く推移したため、ふじの開花は平年より7日前後遅くなりました(表1)。つがるやジョナゴールドも平年より6日ほどの遅れとなっています。また、5月8日の低温と降霜により凍霜害の被害が見られた地域もあります。

結実の状況はまだ判りませんが、開花期間中の5月中旬は気温が平年並み推移しましたが、(図1)、県北部や沿岸では気温差が大きい日もありました。地域により結実率に差が生じる可能性があります。

農作物技術情報号外(平成25年5月9日発行)に掲載しましたが、開花が遅れた年の果実肥大は劣る傾向にあります。早期摘果、早期適正着果に努めてください。

表1 定点観測地点のふじの開花状況(5月27日現在)

市町村	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差(±日)					
	本年		前年	本年		前年	本年		前年	開花始		満開期		落花期	
	(H25)	平年	(H24)	(H25)	平年	(H24)	(H25)	平年	(H24)	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町一方井	5/19	5/11	5/13	5/22	5/15	5/16	5/26	5/19	5/21	8	6	7	6	7	5
盛岡市三ツ割	5/16	5/9	5/9	5/19	5/12	5/13	5/24	5/16	5/19	7	7	7	6	8	5
紫波町長岡	5/14	5/7	5/7	5/18	5/11	5/11	5/23	5/15	5/17	7	7	7	7	8	6
花巻市中根子	5/16	5/7	5/8	5/18	5/10	5/12	5/22	5/15	5/15	9	8	8	6	7	7
北上市立花	5/13	5/6	5/7	5/17	5/10	5/9	5/21	5/14	5/15	7	6	7	8	7	6
奥州市前沢区稲置	5/10	5/3	5/4	5/14	5/7	5/8	5/18	5/12	5/12	7	6	7	6	6	6
奥州市江刺区伊手	5/16	5/9	5/9	5/19	5/13	5/14	5/24	5/17	5/19	7	7	6	5	7	5
一関市花泉町金沢	5/11	5/6	5/7	5/16	5/9	5/10	5/21	5/14	5/16	5	4	7	6	7	5
一関大東町大原	5/14	5/8	5/8	5/18	5/12	5/12	5/22	5/16	5/18	6	6	6	6	6	4
陸前高田市米崎	5/8	5/4	5/6	5/14	5/10	5/12	5/21	5/14	5/16	4	2	4	2	7	5
宮古市崎山	5/13	5/8	5/7	5/19	5/12	5/13	5/25	5/18	5/19	5	6	7	6	7	6
岩泉町乙茂	5/13	5/7	5/8	5/18	5/12	5/12	5/24	5/17	5/17	6	5	6	6	7	7
洋野町大野	5/21	5/12	5/15	5/24	5/16	5/17	5/27	5/21	5/21	9	6	8	7	6	6
軽米町高家	5/18	5/11	5/11	5/22	5/15	5/17	5/27	5/19	5/20	7	7	7	5	8	7
二戸市釜沢	5/14	5/8	5/7	5/21	5/13	5/14	5/27	5/16	5/17	6	7	8	7	11	10
県平均(参考)	5/14	5/7	5/8	5/18	5/11	5/12	5/23	5/16	5/17	6.7	6.0	6.8	5.9	7.3	6.0

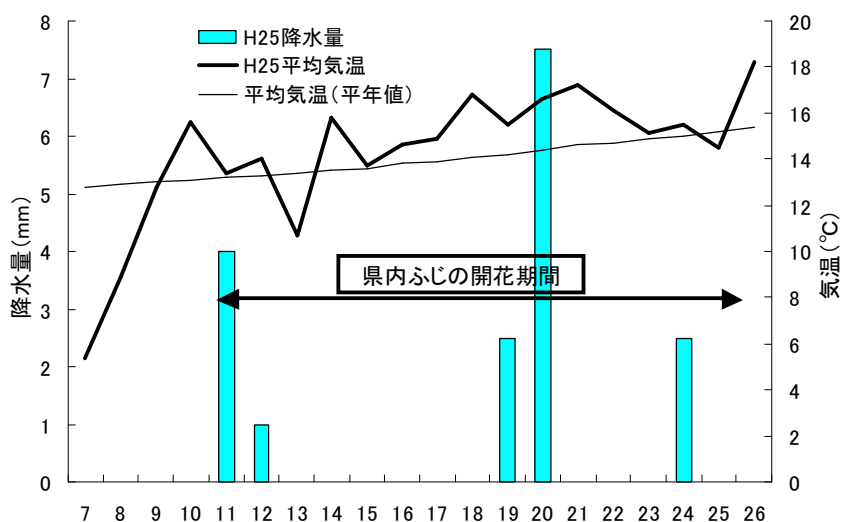


図1 開花期間中(5月)の気象経過
(アメダス盛岡観測点)

2 摘果

(1) 本年は開花が遅れたため小玉果が懸念されます。そこで、あら摘果をできるだけ早めに行い、果実の生育を助けるとともに、隔年結果を防ぐことが重要です。なお、花芽は平年並みですが、昨年も夏季の気温が高く、また、干ばつだったため、地域によっては弱小花芽が多く、開花についても1園地内や1樹内ではばらつきが見られています。各自の園地状況を確認し、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールをたて、計画的に摘果作業を進めましょう。

凍霜害の被害を受けた園地では、被害様相が明らかになり結実を確認してから実施します。また、結実しても、サビ果、不正形果が出るので、予備摘果は多めに残し、仕上げ摘果で良い果形のものを残すようにします。

表2 摘果時期が「ふじ」の当年及び翌年の果実品質、花芽率に及ぼす影響
(長野果樹試 平12~13年)

摘果時期	当年(平12)			翌年(平13)			
	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)	花芽率(%)	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)
あら7+仕60	23.9	348	16.6	75	39.6	327	15.2
あら17+仕60	24.0	311	16.1	59	30.5	305	15.3
あら28+仕60	22.4	309	16.0	44	24.1	303	15.3
あら37+仕60	24.0	311	16.1	28	19.9	318	15.6
あら51+仕60	24.8	269	16.1	20	12.3	299	15.3
仕60	24.9	290	16.4	25	16.6	329	14.9
仕74	23.7	281	16.5	4	3.3	255	14.7
仕94	21.2	280	16.7	2	1.1	297	14.7
対照区(無摘果)	53.4	189	13.8	2	2.6	310	14.8

摘果時期: あら摘果+仕上げ摘果の満開後日数を示す。仕のみは摘果を1回で実施した。

あら摘果: 頂芽の側果およびえき芽果の全果を摘み取った。

仕上げ摘果: 葉果比50~60の基準で摘果した。

翌年(平13)の摘果: 全区ともあら摘果満開30日後、仕上げ摘果満開60日後に実施した。

(2) 摘果の留意点

ア 最初に、1果そう1果とするあら摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。

イ 摘果終了の目安は表3の通りですが、平年より開花期が遅いことから、落花30日後は6月下旬頃になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。

ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。

エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。

オ 果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表3 品種別作業手順

項目	品 種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、つがる、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	ジョナゴールド、紅玉	落花30～35日後

3 病虫害防除

(1) 病虫害防除所の発生現況情報（平成25年4月30日発行）によると、去年は多かったカメムシの越冬成虫も本年は少なく、その他の病虫害も平年並から少ない状況です。

しかし、ハダニ類は気温の上昇とともに増える可能性がありますので、園地内を良く観察し、新梢葉で寄生葉率が30%に達したら、速やかに防除を行ってください。

腐らん病の発生園地では、病患部を発見しだい、切除、削り取るなど処置を施します。

(2) 斑点落葉病や褐斑病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。

また、キンモンホソガ、モモシクイガの発生時期となります。病虫害防除所が発表する情報を参考に、適期防除に努めましょう。

(3) 交信かく乱剤を導入する園地では、6月上旬までに剤を設置します。その際は、必ずフェロモントラップを設置して、随時交信かく乱効果を確認しましょう。

(4) 平成22年に県内で初めて確認されたヒメボクトウの被害が県中南部を中心に広がっています。幼虫が枝幹内を食害する難防除害虫です。被害を受けた枝や主枝は、新たな発生源とならないよう早期に除去しましょう。

ぶどう

1 生育概況（表4）

紫波町赤沢の定点観測によると、「キャンベル」の発芽は5月11日、展葉は5月15日と平年より遅くなっています。これは4月中旬から5月上旬にかけて気温が低く推移したためと考えられます。発芽・展葉が遅れたことで、新梢長は調査開始時（5月24日）で平年の63%でのスタートとなりました。しかし、5月中旬以降の気温は平年並からやや高めに推移しているため、新梢伸長は回復傾向であると考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなります。計画的に作業を進めましょう。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー:短梢)の生育状況(定点観測地点:紫波町)

調査年次	生態(月/日)					5月24日	
	発芽期	展葉期	開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)
			開花始	満開期	落花期		
本年(H25)	5/11	5/15				15.8	3.7
平 年	5/3	5/10	6/15	6/18	6/22	25.1	4.9
前年(H24)	5/2	5/9	6/12	6/15	6/20	27.3	4.4
平年比	8	5				63%	76%
前年比	9	6				58%	84%

2 管理の要点

(1) 新梢の誘引

展葉7～8枚頃に2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。

(2) 花穂の整理

ア 「キャンベル」、「ノースレッド」

開花前に弱い枝の花穂は除き、強い枝には2穂を着生させ、全体で目標着房数の1~2割増の着生数とします。

イ 「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」

最終房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

(3) 花振るい防止

ア 「キャンベル」は、強めの新梢を開花7~4日前に房先5~7枚残して摘心します。

イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用の際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形（図2）

ア 「キャンベル」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除し、下端を切り詰めます（尻止め）。

また、主穂が長すぎる場合は上段の枝梗を1~2段切除します。

イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1~2輪開花し始めた頃から先端部を切りつめます。「紅伊豆」では、副穂を切除し、主穂の基部から4~6段を切除して10~13段程度を残すように整形します。

ウ 「サニールージュ」では、開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1~3段除去）、花穂の長さを概ね7~8cmとします。なお、花穂の先端は切りつめません。

エ 「シャインマスカット」では開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂と上部支梗を切除し、花穂の長さを概ね4cmとします。花穂の先端は切りつめません。また、花穂先端が2つに分かれ使えない場合は、第1支梗を利用します。

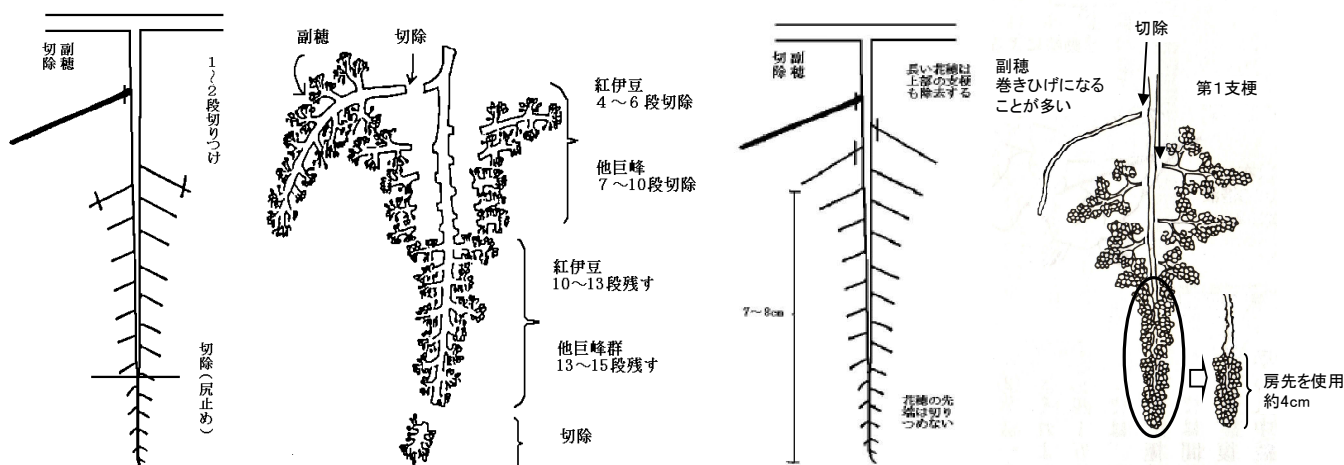


図2 花穂の整形（左からキャンベルアーリー、紅伊豆等大粒種、サニールージュ、シャインマスカット）

(5) ジベレリン処理

「デラウエア」や「アーリースチューベン」は開花前後の2回、ジベレリン処理することで、無核で果粒の肥大した早熟の果房が得られます。

「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」、「サニールージュ」、「シャインマスカット」は無核化とともに果粒肥大促進を目的として利用されますが、樹勢が強く花振るいが多い場合、ジベレリン処理により着粒数を増加させることができます。また、「シャインマスカット」では、満開14日前~開花までの間にストレプトマイシン液剤（商品名：アグレプト液剤）を散布することで無核化率が向上します。

なお、ジベレリンやアグレプト液剤を使用する際は登録内容を確認して利用ください。

3 病虫害防除

(1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。

(2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成25年 5月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 牧草 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響します。生育ステージを観察し、適期収穫を行いましょう。
- ◆ 飼料用トモコシ 雑草防除のため生育期処理を行い、収量確保・サイレージの品質向上を目指しましょう。
- ◆ 暑熱対策 ここ数年、夏場の気温が高く推移しております。暑熱対策として換気扇は有効ですが、電気料をおさえ、換気効率をあげるため、換気扇の清掃を行い夏場に備えましょう。

牧草

1 生育状況

4月下旬から5月上旬にかけ、平均気温が平年を下回り、牧草の生育が遅れている地域もみられました。

2 収穫

(1) 1番草の収穫適期

図は、オーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。

生育が進むにつれ収量は増加しますが、消化率、可消化養分総量(TDN)、蛋白質含量(CP)は減少します。

収量と栄養価のバランスを考慮して、『出穂始めから出穂期』に収穫を行いましょう。

(2) 刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、2番草以降の再生力と収量を決定する重要な要因です。

低刈りは再生力が悪くなり、高刈りは収量減少につながります。地際から10cmを目安に刈り取りを行いましょう。

(3) サイレージ調製

ア 原料草の予乾が不十分だと、養分の流出や不良発酵の原因になります。調製方法ごとの目安として、ロールバールサイレージ(水分50~60%)、タワーサイロやバンカーサイロ等(水分65~70%)となるよう、予乾を行いましょう。

イ 土壌の混入は不良発酵の原因となります。作業スピードを落とし圃場の凹凸に注意しながら収穫作業をしましょう。

ウ ロールバールサイレージに調製する場合、ロール成形後密封までに時間が大幅に経過すると、品質低下につながります。ロール成形後は必ず当日中に密封作業を行いましょう。

(4) 乾草調製

良質な乾草を調製するためには、水分を20%以下に落とすことが大切です。水分が高いと、カビの発生による品質の低下だけでなく、発熱、自然発火にもつながります。天候を考慮し、晴天が続かない場合には、サイレージ調製を行いましょう。

(5) 収穫後の追肥

2番草の生育を促進するため、刈取り後直ちに追肥を行います。施肥量の目安は、10a当たり成分で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。

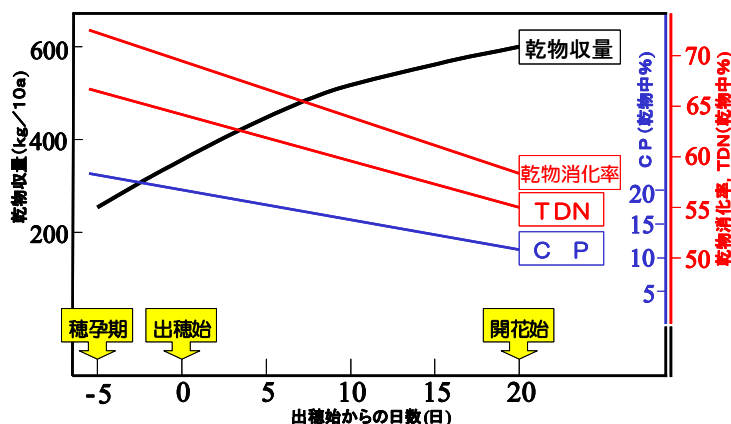


図 1番草収量・栄養価の時期的推移(オーチャードグラス)

飼料用トウモロコシ

1 生育状況

5月中旬までの平均気温は、平年と比較して若干低く推移しましたが、5月中旬には平均気温が10度を超え、中旬から下旬にかけて飼料用トウモロコシの播種が各地域で進んでおります。

2 雑草防除

雑草の繁茂を防ぐには、早期の発見と防除が不可欠です。土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理が必要です。雑草の種類によって、効果が期待できる除草剤が異なるので、圃場の雑草を確認のうえ、適切な除草剤を選択しましょう。除草剤によって散布時期が定められているので、使用方法（時期、回数、留意事項等）を必ず確認してください。

暑熱対策

近年、猛暑が長く続く傾向にあり、受胎率の低下など影響がでております。また、暑熱により呼吸数が増加し、無駄にエネルギーが消費されます。猛暑の影響を緩和するためにも、十分な暑熱対策をとれるよう、今から準備をしておきましょう。

1 輻射熱の遮断や遮光

屋根に当たった日光による輻射熱で牛舎内の温度が上昇します。遮熱塗料やドロマイト石灰などを屋根に塗布することで、輻射熱を低減させられます。また、寒冷紗等で西日を遮ることも有効です。

2 送風

牛舎内に気流を作ることで、牛の体感温度を下げるができます。換気扇を設置していない場合や台数が不足している場合は、新たな設置も検討しましょう。牛舎の構造や飼養状態によりリレー換気、トンネル換気、ダクト換気等、適した換気方法を選びましょう。

また、すでに換気扇を設置済みの場合、ホコリやクモの巣があると換気効率が落ちるだけでなく、電気代の増加にもつながります。今のうちから掃除をしてすぐに使えるよう、準備をしておきましょう。

3 給水施設の整備

暑熱対策として、飲水量を確保することも大切です。十分な飲水量を確保するため、配管を太くすることや、ウォーターカップを改修することも検討しましょう。また、水槽のこまめな清掃も飲水量確保に有効です。

春の農作業安全月間実施中！ [4月15日]
[~6月15日]
慣れと油断が事故のもと いつもの作業もまず確認！

次号は6月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。